

# 認知症の症状別対応方法

～お互いに安心して介護生活を送るために～

## 被害妄想



### ○被害妄想の種類と対応

#### ・物の盗られ妄想…「鍵を隠された」「財布を盗まれた」等

##### ①共感する

否定も肯定もせず、まずは「大切なものがなくなって困っている」ことに共感して、ご本人の話を聴きましょう。

##### ②一緒に探す

もし介護者が先に見つけた場合は、ご本人が見つけやすい所に置きなおし、発見してもらってください。「自分で見つけられた」という安心感と自信は、物忘れへの不安を少しずつ拭ってくれます。

#### ・嫉妬や対人関係の妄想…「浮気された」「誰かが家に入ってくる」等

##### ①恐怖や喪失の感情をいやす

大切な人とのつながりを失う恐怖、居場所や役割を失う喪失体験が引き金となりやすいのです。ゆっくりと丁寧に関わるのが直接的な解決法となります。

被害妄想の多くは、認知症の症状による苦しみ、老化への不安、孤独感や悲しみなど、多彩な深い感情が隠れていることがあります。そのような感情が被害妄想として表面化されるといわれています。家族や介護者にとってみれば、とても辛いものとなるでしょう。

無理に対応したり、完全に解決しようとしたり、自分だけで抱え込まないようにしましょう。たとえ短時間でも、他の人の力を借りて必要に応じて介護や医療のサービスを利用して、やり過ごす工夫も必要です。

—メモ—

高砂市地域包括支援センター(認知症相談センター)



☎(079)443-3723